

組合創立30周年記念 特 集 号



愛 知 県
板 金 工 業 組 合
名 古 屋 市 昭 和 区
北 山 町 3 - 8 - 6
電 話 732-1226
発 行 広 報 委 員 会

30周年を迎えて

理事長 平野 弘

愛知県板金工業組合は、中小企業団体の組織に関する法律に依って改組設立以来、ここに30周年を迎えました。過去、現在と幾多の試練に耐え抜いた変遷を振り返り、共に喜びに耐えません。

この間、組合員先輩皆様には様々な創意工夫により、試練を乗り越えて組織を守り育て強固な団結により、今日の繁栄が築かれて参りました。

また、永年に亘りご指導、ご支援助りまして行政諸官庁、並びに関連諸団体の各位、心から敬意と感謝の意を表し、厚くお礼申し上げます。

最近の社会経済の変動は目まぐるしく、業界を取り巻く経営環境は大変厳しく、技術革新、情報化の進展、労働時間の短縮、さらに円高、価格破壊等、多くの対応が迫られております。

この様な状況の中で、私ども組合は、さきに『活路開拓事業』第一次「板金業の近代化と道標」第二次「事業活動の合理化システムと市場開拓」をテーマに、ビジョンを創出して参りました。更に、本年は記念すべき年に当たり、労働環境フィージビリティ調査事業に取り組み、二十一世紀に向けて伝統を守りながら新しい活路を求め変革と創造、魅力と活力ある組合づくりに勤めたいと存じます。

今後とも一層のご協力とご指導をお願い申し上げます。

愛知県板金工業組合

30周年記念式典

愛知県板金工業組合は5月26日午後3時から、名古屋市名駅のグランドスクエア・クレーンで創立30周年記念式典を開催した。

現在組合員数は881事業所で組織されているが組合という形ができず、以前の事と思われ、中小企業団体組織に関する法律が施行され現組合となり30才を迎えた。



記念式典会場においては3時から30分間アトラクションとしてCDビデオのウェルネス21(心と身体の健康)が行われた。3時50分からボイス・オブ・アイチから派遣された女性司会者の進行で開会の辞が村上副理事長より発せられた。まず始めに組合員の亡くなられた方々に對し黙禱が行われた。また、表彰式においては組合役員功労30名と永年勤続優良従業員45名が表彰された。二村武次氏叙勲祝賀に伴う感謝状と記念品の贈呈式も行われた。



来賓祝辞は愛知県商工部長の篠原徹氏と愛知県中小企業団体中央会の島崎新治氏の挨拶があった。

齊藤副理事長の閉会の辞および万歳三唱で記念式典を盛大に締められた。

記念式典に寄せて

副理事長 村上 章

月日の過ぎるのは早いもので光陰は矢の如しと申しますが、愛知県板が星霜三十年ここに薫風さわやかに肌をなでるよき日、御来賓の方々始め、県下各地より多数の方々の御出席を得まして、盛會裡に開会致しましたこと、組合員の一人として喜びにたえず、過ぎし日をかえり見て誠に感無量を覚えざるを得ません。愛知県知事表彰・愛知県中小企業団体中央会会長表彰・愛知県板工業組合理事表彰を

結びになりましたが、愛知県板のこれからの隆盛と組合員の御健勝を御祈念致しまして、私の挨拶とさせていただきます。
平成七年五月二六日

板金組合と私

副理事長 齊藤 充昭

十年一昔と言われる中で組合創立三十周年の歴史の重みは大きい。昭和四十一年に開かれた設立総会の様子をおぼろげに思い出す。たしか鶴舞の勤労会館で行われたと思う。

当時私は三十才、バリバリの現役であったが板金組合の事は支部の行事に顔を出す位で全体の組織・事業・役員構成などほとんど知らなかった。まして三十年後、正確に言えば

二十二年後に愛知県板の三役を拝命しようとは夢にも思わなかったのである。

設立当時、知多支部から近藤良一氏が県板役員(常務理事)として初代山口理事のものとして活躍されて居た。近藤氏は頭脳明晰・健康そのもので健在である。その頃、知多支部には大物顧問が二人居た。一人は板金業から鉄鋼・二次製品問屋「武豊屋株式会社」の創業者である青木四郎

創立30周年に

よせて!!

木氏・美濃氏の二人によるものである事が判った時はすでに時遅しである。かくしてそれまでの支部長経験者の中で一番若い三十四才の支部長が誕生したのだが、その時美濃親方から「苦勞は多いが皆が出来ない経験をするのだから必ず得るものがある。また業界全体の現状を見る事が出来るから良いところを吸収して自分の商売の糧になる。しかしこれから先、組合の仕事

は金儲けにはならないから、あまり深入りしない方が良い」と諭されたが、現在の役職から言えば親方の忠告を無視した事になった。それ以来知多支部は支部長の若返りが進められて来たが、旧態依然とした組合に新風を吹き込み、改革を計った青木・美濃両氏の先を見越した方策であった。昭和四十五年五月全板連の「板金会館」が六千百万円で完成。翌四十六年の第六回通常総

代会で柴田嘉市氏が二代目理事長に副理事長には栗田政雄氏が就任。此の頃より愛知県板金会館建設の声が出始め。この年、知多支部より常務理事として長年活躍された近藤良一氏が退任、代わって岡戸林市氏が常務理事を務める。柴田理事長就任と共に職業訓練校板学会の存在が大きく扱われどちらが本家なのか不透明な時期が続く。四十九年板金会館の建設用地を長久手町に購入。後にこの土地が建設不許可地区である事が判明問題になる。しかしこの件については組合員に正確な事情説明がなされないまま現在地へ用地を買い替え五十四年十二月一期工事が完成、五十七年十月に二期工事が完成して現在の姿となっている。この間、用地買収費、会館建設資金を組合員から出資金として負担願う事としたため岡戸氏や五十年から常務理事を務めた榎原正一氏は当時の竹内支部長を補佐しながら出資金集めに大変な苦勞をされた。岡戸榎原両氏は同年輩であり親友の二人は共に健在で悠々自適である。他に長年

板金技能士会長や検定委員長として技能士検定や育成に努力され、昨年秋の叙勲で褒章を受賞された二村豪一氏や二代目広報委員長を務めた磯崎金伍氏は共に現在に至る組合活動に貢献された人達である。もちろん組合を支えて来たのは本部役員ばかりではなく、愛知県板傘下三十一支部の中では一番の所帯である知多支部を切り盛りする支部長以下支部役員のご苦勞は単純なものではない。五十二年四月、柴田氏に代り日比野定雄氏が理事長に選任され以後四期八年に職された。翌五十四年六委員会を設置、組合事業の近代化への足掛かりに委員会活動を軸に進める新体制を組む。また板金会館の完成により日比野体制時代は愛知県板の基礎固めの時と言える。六十二年五月、現平野理事長が就任。これより三十周年に至る八年間は愛知県板金全体の資質向上の期間でもあった。各委員会の充実した活動、二回にわたる活路開拓ビジョン調査事業。責任施工保証事業の確立、海外研修市場調査など平野理事長

の果たしたリードオフマンの功績は大きい。最後に自分の事で恐縮であるが、五十四年広報委員に指名されて以来県板とのつながりが出来、五十六年榎原正一氏の後をうけて、平野氏村上市氏と同期で常務理事に、六十二年平野理事長新任と同時に村上市氏と共に副理事長を拝命したのだが、この時の驚きと心配は今も忘れる事は出来ない。板金組合と共に歩んだ二十五年、喜びあり悲しみがあり、怒れる事あり、しかし県内はもとより近県から遠く全国に親しくお話がして頂ける大勢の人々と知り合えたことは何にも勝る喜びである。三十周年を向かえた愛知県板金工業組合、節目ではあるが単なる通過点に過ぎない。明日から四十周年、五十年への挑戦が続く。終りに板金業界の向かう将来の道が栄光に輝くよう祈念するものである。



組合創立30周年

被表彰者名簿

【愛知県知事表彰】

〈役員功勞〉

加藤 友三 西 支部
川村 清春 昭和支部
滝 伸次 江南支部
羽柴 弘和 西春支部
細野 清 西春支部

〈永年勤続優良従業員〉

今井 麻男 岡崎支部
梶田 剛弘 西 支部
川村 邦男 熱田南支部
窪井 一 瑞穂支部
杉浦 留夫 西春支部
萩田 豪男 一宮支部
蓮池 美郎 知多支部
花井 和信 緑 支部

横井 載典 刈谷支部
【愛知県中小企業団体
中央会会長表彰】

〈役員功勞〉

今井 久由 江南支部
岩室 鏞 刈谷支部
奥谷 正 碧南支部
柴田 幸治 西春支部
竹内 隆成 知多支部
谷倉 勝郎 瑞穂支部
西俣 一章 豊田支部
久田 良雄 千種支部
広川 卓也 小牧支部
松野 徹 熱田南支部

〈永年勤続優良従業員〉

生き甲斐の30年

西尾支部 杉浦 武

組合創立三十周年を迎えられ心からお慶び申し上げます。

人生三十年は破竹の年と云われます。人

言えはこの時期こそ人としての価値観を得

て旺盛なる行動力を持って希望に満ちた活躍の

出来る年代ではないで

しょうか。思えば今日

までの激動の時代を乗り越え、さらにその流

れを的確に把握した歴代役員方の御苦勞によ

りこの大きな節目を迎えるまで堅実な発展を遂げられた事に心から敬意を表したいと思

ます。

今日の世相を見る時、政治経済を始め社会情

勢も一大転換期を迎え一段とくびしさを増し

て居ります。我々板金業も建設業界の一翼

を担う重要な職業として認識されてまいりまし

た。今後共益々充実した組織として活躍され

ることを願ひ、改めて御祝ひ申し上げます。

昔から「人生は出会いなり」と云われますが、まさに私にとって

は「組合」という幸運な出会いの場があった

おかげで県内各地区の同業者と親密な交流を

計る事や先輩・知人とのふれあいを深める事

が出来、私の人生に大きな宝」と思っ

て居ります。今振り返って三十年間に御指導いた

だいた歴史の理事長の下での色々な思い出は

尽きませんが、厳しさとなつかしさを思い浮

ぶる事をお願い、改めて御祝ひ申し上げます。

井出 勝男 知多支部
伊藤 公一 熱田南支部
岡本 吉道 西 支部
唐沢 豊 春日井支部
柴田 真澄 西春支部
清水 三夫 岡崎支部
白崎 逸男 中川港支部
田口 弘 瑞穂支部
種井 克生 岡崎支部
富山 廣美 岡崎支部
平松 武久 一宮支部
廣中 好孝 緑 支部
福田栄次郎 昭和支部
町田 恭男 中川港支部
松井 重次 西 支部

伊藤 正明 緑 支部
稲吉 忠 西尾支部
加納 重幸 岡崎支部
木村 重幸 東三支部
久世 明男 岡崎支部
後藤 賢治 瑞穂支部
鈴木 二郎 岡崎支部
杉浦 品充 碧南支部
土田 和彦 一宮支部
外山 敏 刈谷支部
橋本正一郎 西春支部
福田 輝幸 中川港支部
宮下 安人 東三支部
安藤 洋次 刈谷支部
井口 由夫 東三支部
糸魚川政孝 一宮支部

〈役員功勞〉

青木 久治 知多支部
伊藤 司 熱田南支部

【愛知県板金工業組合 理事長表彰】

伊藤 誠 西尾支部
宇佐美二郎 西春支部
内川 貴司 熱田南支部
大上 義光 緑 支部
大友 八郎 東三支部
後藤 洋介 知多支部
近藤 久 中 支部
沢田 正道 知多支部
鈴木 邦生 西尾支部
土屋 秀夫 江南支部
戸松 悟 岡崎支部
人見 博文 岡崎支部
村松 俊光 瑞穂支部
宮田 正孝 中 支部
山下 秀樹 千種支部
湯浅幸一郎 中川港支部
鷺津 憲志 西 支部

創立30周年に

よせて!!

かべながら、一言拙文を述べさせて頂きます。県板創立と同時に初代山口理事長の元で、理事として出席した頃の役員で、どちらを

見ても先輩ばかりで、理事長などは「天の人」の思いで、又各常務理事など声もかけられな

い様な雰囲気、理事会が続いて居りましたが何とか欠かさず出席を心

掛けました。おかげで地元西三地区の各役員さんとは必要以上に仲

間意識が強くなり、やがては西三連合会を発足させる原因になったと思っております。

四十年代後半には、板金技能士会会長であつた柴田氏が二代目

理事長となり、技能士会長を兼任されながら三期。この頃から技能

士会を通じ、度々の役員会を重ねることにお互い親密感が深まり、役員としての責任を感じ、会話も楽しくなり

素直に受け入れ、組合組織として「理論即行動」の重要性を痛感し、他県板の情勢を見聞しながらも積極的に協力するようになりました。又県板会館の建設問題も大きな話題となり、土地確保等には理事長が大変苦勞されましたが柴田氏の在任中には成就せずに終った事を覚えております。その後五十二年には、三代目理事長に日比野氏が就任され、その温厚な運営ぶりには正直いって多少息が抜けた思いがしたのを覚えております。そして当時の事務局長の鈴木準一氏と役員会も大いに打ち解け、その中で役割分担を考

え役員組織を検討して初めて「委員会制度」を作ったのも鈴木氏の努力の賜であつたとなつかしく思い出されま

す。又、五十四年には改めて板金会館建設に意欲を燃やし、全組合員の総意と役員各位の協力更に関連問屋会の理解ある協力を得てやっ

30才の愛板を

支えてきた人々

過ぎてしまえば早いもので、愛知県板金工業組合も、30周年を迎えました。

振り返ってみればこの30年間、事業の中で一人親方の労災保険、全板国保、会館の建設、技能検定、各種の訓練講習会、全板連や各協会、団体との連絡および参加、保証制度への長い道程といろいろありました。

現在、社会情勢も大きく変化しつつあり建設業界の中にも斜陽を迎えようとしている職種も考えられます。すでに一宮市の左官業組合は組合員減少により組合組織を解散しました。

しかし、板金業においては作業内容の拡大等をもって発展しつつあるといえます。この努力によって30周年がむかえられたと思えます。

これも一重に歴代の組合役員皆様の献身的なご努力の賜物かと思えます。

紙面の都合で昭和60年頃までの常務理事以上クラスの方々を選任順位でご案内し当時を

思い出お礼を申し上げたいと思います。

57年		56年		53年		51年		49年		昭和45年頃																								
大友 賢治	甲部 安男	羽柴 弘和	二村 武	山田 栄	齊藤 充昭	外山 章	平野 弘	村上 章	磯崎 欽伍	石黒 孝治	清水 功	高柳 丑五郎	宮田 金雄	松浦 武	八神 秀吉	松井 住	水谷 明光	榊原 正一	榊井 神夫	林 吉三朗	岡戸 林市	豊田 義成	前田 義雄	日比野 定雄	竹内 正成	岡田 賢三	近藤 良一	後藤 多三	村田 藤二	鳥居 留吉	朝日 松信	栗田 政雄	柴田 嘉市	山口 音吉

30周年を迎えて

岡崎支部 山本 清

揺れ動く社会情勢や低調を続ける建設業界にあって、私ども愛知県板金工業組合が安定的発展を遂げ乍ら、三十周年という大きな節目を迎えることのできようことを、皆様と共に願ひますと、この間多くの先輩組合員のご努力に依り、めまぐるしい社会変化への対応

にも、常に将来展望を旨として継承され、組合の姿も、職人の集りから企業集団へとすばらしい変貌を遂げてまいりました。その歩みは、まもなく発刊三百号を数える機関紙「愛板」が克明に記してまいります。

創立30周年に

おめでとう!!

頃、経済の潤いを背景に福利厚生の拡充や委員会組織の導入、保証制度の取りくみなど段階的に進められた。六十二年、画期的な事業として活路開拓調査事業「企業行動の適正化・板金業近代化への道標」及び同第二の調査「板金業のニューフロンティア、事業活動の合理化、システム化、新市場の開拓」、

それぞれ一三三章に構成されビジョンの提言としてとりまとめられ

不変の両輪であります。特に養成訓練のウエイトは大きく、次代を担う若い人達が旺盛な目的意識を持って将来への夢を育める環境作りをしてゆくことも大切な仕事の一つと考えています。

愛知県板金工業組合も人にたえれば三十才、家庭も子供も持つ働き盛り、さらに充実しなければいけない時期に入り、実力の上昇と断絶が不可欠となりましょう。

そこで余談を一つして終えます。同じ状況におかれても、その状況の受け止め方によって、物事の進み方には大きな違いが出る。この例としてよく引用される有名な話です。ある靴メーカーがアフリカに進出する可能性を考えて、二人の社員を市場調査のために派遣をした。

そこででは殆どの人が裸足で歩いていて、それを見た一人の派遣員は「皆裸足、望みなし」と電報を打った。もう一人の派遣員は「皆裸足、望みあり」と打電した。同じ状況を見て、見る人によってこれだけの差が出るのである。 P H P より

30周年の歩み

東三支部 仲井 善律

プラス思考による前向な努力の持つ意味を考え乍ら、私自身仕事や諸事に取り入れてゆきたいと思う今です。健康に留意して、この目ですばらしい四十年を迎えたいものです。

愛知県板金工業組合の隆盛を願って運営がなされ、昨年度で九十年に成り、昭和初期に大不況に見舞われ力強く生き抜こうと、東三河一円に呼び掛け昭和十四年に東三板金工業組合と改め、昭和十七年大協理事長栗田専務理事の時に、東三支部を設立しました。戦後は復興へと希望を抱き優れた師弟関係の中から、将来の教養と技術を高める為に、豊橋高等技術専門学校として実りある四十年を迎えるに至り、長い歴史のある技能集団の中で、自営業の良さを確認し、自己伝統を次代へつなぎより繁栄を築いて行く事でしょう。

平野理事長ほか皆様には、五十五年記念式典に活力ある御指導を賜りありがとうございます。

第47回 全国建築板金業者秋田大会

◆21世紀へあと5年◆

《責任施工制度》づくりは業界の「新しい顔」づくり、を総合テーマに「秋田こまち」のふるさと秋田市で開催された。

誇りに満ちた腕利きたちが、美の国秋田に集結する!!

例年五月に開催されている全板大会が今年も米どころ秋田で開催された。愛知県板金コースに46名が参加。一宮・昭和支部が別コースで参加総勢78名が秋田大会に出席した。雨の多いこの時期に仕事のやりくりが大変で今年も16日・14日・15日と雨が続き外仕事の多い我々には旅行前に幾日も雨にたたられ旅行中は良い天気なのも痛しうしである。

小雨に煙る秋田市は人口30万の「みちのく」



の都市で静かな町並みであった。ホテルや旅館はどこも板金組合の宿泊名がめだち小さな都市は4千名余の職人たちでにぎわいそう。私たちが市内にある赤れんが郷土館と秋田の民俗芸能の竿燈が展示してある「ねぶり流し館」を見学してから市内にある旅館「榮太郎」に泊まった。この宿は元横網大鵬親方の奥様の実家であり大鵬ゆかりの品々がいろいろ展示してある和風の旅館でトロン温泉に浸かり秋田の夜を満喫した。明けまして18日は私たちがすばらしい秋晴れで歓迎してくれた。式典は午後からなので、午前中、秋田県立博物館と国の重要文化財の旧奈良家を見学した。全板大会の会場は秋田市の中心地に近い秋田市立体育館でギリシャのパルテノン神殿をイメージした建物とこと円形の屋根はステンレスシーム工法で葺かれていて快晴の天気に眩しいほどに光輝いていてすでに多くの組合員が会場を埋めていた。



“写真左より、今井氏、内山氏、近藤氏、早川氏、梶山氏、望月氏”

式典の前にはアトラクションが行われ秋田名物の竿燈も上演されていた。式典では兵庫県の理事長の震災義援金のお礼の挨拶や秋田県板理理事長、臼井全板理事の挨拶があった。続いて表彰式があり愛知県板金では次の方々が表彰された。

- 今井 文夫 江南支部
- 内山 英臣 岡崎支部
- 近藤 宏 西尾支部
- 早川 隆史 碧南支部
- 梶山 基義 知多支部
- 望月 大治 刈谷支部

以上6名が組合功労者で受賞した。又、今年2月17・18日の両日九州熊本市で第17回全板連青年部全国技能競技大会が開催され36名が腕を競って見事第3位に入賞した宇野 賢氏。33才の表彰も行われた。天気が良かったからか会場は例年と違って満員の会員で埋まっていた。秋田県板金の組合員は若草色の揃いのジャンパーで会場整理に汗だくのものであった。屋外展示場では例年のように、たぐさんのメーカーが商品の展示を行っていた今年の展示を見てみるとこれはとてつような新しい商品は見あたらなかった。

しかしやはり好天に恵まれ展示場は多くの人でにぎわっていた。式典も終わり会場をあとに山陰には雪が残る駒ヶ岳観光ホテルに向かった。窓を開ければ鷺の鳴き声が聞こえ温泉ホテルで湯ノ花が白く濁る露天風呂につかり旅行を満喫できた。別コースで参加していた碧南支部や一宮支部も二泊めのこの宿で一緒に夜宴の宴会は60名を越す盛大な宴会になった。例年、夫人同伴の参加があるが今年は7名のご婦人の参加があった。日頃家庭で留守を預かっていてなかなか夫婦同伴で旅行する機会がない奥様をこんな時にねざらば毎年一緒に旅行すれば全国を回ることもできるし、喜ばれるのではないか。19日は日本一深い紺碧の湖、田沢湖と角館武家屋敷を見学して3時の便で空路秋田をあとにした。

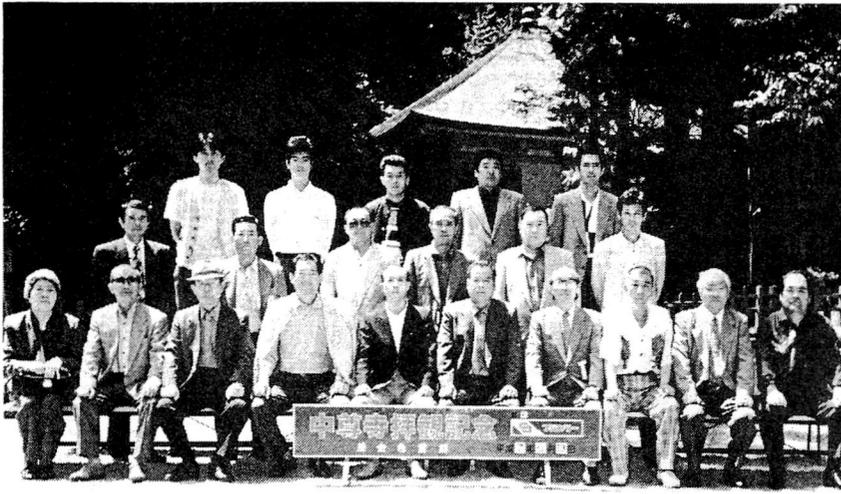
驚見

全板大会参加旅行

碧南支部 高橋 銀 吾

現在碧南支部では支部行事として一年おきに全板大会に参加している。碧南支部の全板大会参加の歴史は古く、県板が創立されて間も

ない昭和四十三年二月の別府市で開催された時にさかのぼる。当時二十数名の組合員のほとんどが参加したと聞いている。行き



は夜行寝台列車で、その車中夜遅くまで酒を飲み騒いで、車掌に注意された話や、大会当日の宴会は別府温泉「すぎのい」で全国から集まった千数百人が一堂に会して行なわれた事、又、帰りは大雪の為、列車が動かさずフェリーで神戸まで来た事等、ハブニングも有り、今でも酒の席などで、そんな話題が出る程楽しく印象に残る旅であつたらしい。この別府大会に参加した事に依り、支部内の団結(和)が以前にも増して深まったと思われ、以後十数年の間は、ほぼ毎年支部行事として全板大会に参加している。その後、経済情勢の変化などにより、隔年に参加する事になり現在に至っている。

今回の秋田大会には県板コースではなく、支部独自のコースで参加したが、これは県板コースに反発が有つての事ではなく、以前にも何度か独自のコースで参加している事や、青年部諸君の多数の参加を得るには、独自のコースの方が良いと判断した為である。

今回は碧南支部所属十九事業所より二十一名が参加した。参加費は一人四万円徴収し、不足分は支部会計より百五十万円を限度に支出する事になっていた。金銭的には裕のある旅行であつた。

五月十七日早朝五時、碧南市役所に集合しマイクロボスにて名古屋空港へ向う。そして小雨の降る仙台空港に着き、青葉城と伊達政宗公の霊廟である瑞鳳殿を見学し、松島にて昼食をとり、その夜は花巻温泉「ホテル紅葉館」にて宿泊した。

十八日(大会当日)は、碧南支部からも早川隆史氏が功労章を受賞されるので、定刻までに会場へ入らなければならぬという事で、花巻から秋田まで三時間三十分バスは走り走った。しかし二十八人乗りのサロンバスに二十一人が乗車しているだけなので、席がゆつたりであったので疲れはしなかった。大会会場へは予定通り到着し、展示をゆっくり見る事ができ、又、会議場内にも入って表彰者に拍手を送る事もできた。その夜は県板コースと同じ「駒ヶ岳観光ホテル」に泊り、宴会も県板の皆さんと一緒にになり、昨夜とは又一味違った楽しい夜を過ごした。十九日の朝は県板の皆さんより三十分早くホテルを出発し、中尊寺を参拝し、美浜を見学して仙台空港へ向つた。飛行機の名古屋着が七時五十分という事で、少々早いが、途中のサッポロビール園で夕食をとる事になった。この三日間さんざん飲み食いしているの、ほんの軽い夕食のつもりでいたが、生ビールを一口飲んだとたん全員が盛り上ってしまった、ビールと焼肉の追加、又追加で予想外の大出費であった。しかし終り良ければ全て良しのごとく、この様な盛り上がりでこの旅を締めくくる事ができ、又たいしたトラブルもなく、無事に家路につくことが出来て、本当に楽しい旅行であった。

お疲れさまでした!! 金沢先生

さる四月三十日岡崎市内のレクワールドにおいて、訓練所・工学院を通じて四十年間、学科の講師をされてこられた金沢先生が、このたびおやめになる事になり、卒業生たちによる『金沢政治先生感謝の集い』が盛大に開催されました。

金沢先生は、西三地区を主に、訓練所を始め、技能検定の学科の講師も勤められ三百名近くの人が、お世話になり、凄いな数になってしまひ、卒業生のみのお礼の会になりました。

なかには、親子二代で先生にお世話になった方も、何組かみえてまさに金沢先生には、頭の上がらない人ばかりの集まりになり、楽しく、笑いの絶えない集いになりました。

最後に、金沢先生ご夫妻より、お礼の言葉があり、先生直筆の『至誠通天』の色紙を頂き散会になりました。

先生には、技能検定の学科は引き続き、お願ひですとの事ですので、よろしくお願ひいたします。

金沢先生 本間に長い間お疲れさまでした。

金沢政治先生感謝の集い



岡崎 中村

◆名古屋丁口ツク◆ 名古屋連合会

平成七年度総会開催

名古屋連合会(村上章会長・会員二十四名)は平成七年度の総会を5月29日(月)午後六時より中川区昭和橋通りの「築太郎・本店」会議室で開催した。

棚橋敏光氏(中川港支部)の司会で大脇国和氏(瑞穂支部)の開式の辞に続いて村上会長の挨拶があった。続いて議事に入ったが議長は例年会長が努めることになっており村上会長が議長について



た。

第一号議案・平成六年度の事業報告、長谷川信俊氏(中支部)が報告承認された。第二号議案・収支決算報告、川村清春氏(昭和支部)より報告合わせて監査報告があり異議なく承認可決された。第三号議案・平成七年度事業計画並びに収支予算案、村上章氏(千種支部)より事業方針・事業計画が発表された。事業方針、愛知県板金工業組合の指導協力により会員相互の意思の疎通と連帯感の強化をめざし、事業活動の推進を図る。

事業計画、
①愛知県板金総合職業訓練協会との連携による訓練生の確保。
②愛知県板金総合職業訓練協会の主催する事業の協賛。
③新年安全祈願祭を行う。
④福利厚生事業として会員の親睦を図るため、次の事業を行う。
ア 年一回ボーリング大会を行う。
イ 連合会主催によるゴルフ大会を行う。
ウ 随時会員による懇親会を行う。
エ 事業所の見学研修会を行う。

以上つづいて収支予算案が紹介され可決された。第四号議案・役員改選、役員任期満了にともなう改選で次のように改選され可決された。

(新役員 敬称略)

会長 村上 友三
副会長 加藤 敏光
幹事 堀口 正
監査 長谷川信俊
会 計 棚橋 敏光
理事 川村 和利
松代 一郎
尚、前年度まで副会長を務められた大脇国和氏は体調を崩された為、退任された。会計の川村清春氏も支部役員交代のため任期満了退任された。

第五号議案・その他
役員から年会費の値上げ案が出されたが事前に支部長にも知らされておらず異議が出たため後日もう一度役員会で審議する。

以上で議題のすべてを承認可決された。議事終了後来賓の平野真樹理事長の挨拶があり前理事長の日比野定雄氏の紹介があった。氏は病に倒れ入院されていたが最近回復したとのこと大脇氏と同じくいつまでも健康であらねたい。又奥板の早川専務理事も来賓として出席された。

総会終了後、会場を宴会場に移して懇親会を開催した。 驚見

★東板会 ゴルフコンペ★

五月二十六日昨日までの雨もあがり、絶好のゴルフ日和。「心掛けがいいから天気も良くなる」ニヤニヤしながら「スコアも天気のように」とカミさんのいささか冷たい視線を背中に受けて、新城C Cへ。十二時十八分スタート。ある人は半日仕事をやって、ある人は「ハーフを回って(エッ)来た人。組合員十七名、問屋三名の二十名でコンペ。知った顔ばかり、和気あいあいのスタート。新城はちょっと曲ればすぐOB、やたら前から(四打目)それに輪をかけてトリッキーな北コース、その北をなんと三十六回つた山下さん。HC九とはイェスゴイ。受付で、「ホイ、ペン先が見えん」というオトシ。「仕事やっとなるか」のヤジの飛ぶ、表彰式は山下さんの一人舞台。優勝、ベスグロ八十、ニアピン、ドラコン、賞品を総なめにした彼は、板金学校の先生でもあります。山下さんおめでとうございます。ちなみに二位は小生でした。 東三 吉田

組合員手作りの作品 奥板へ寄贈

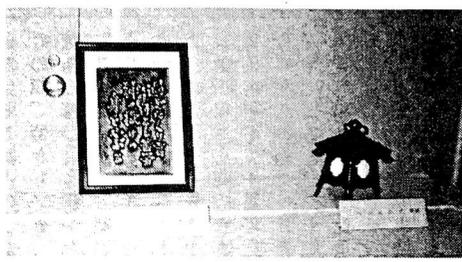
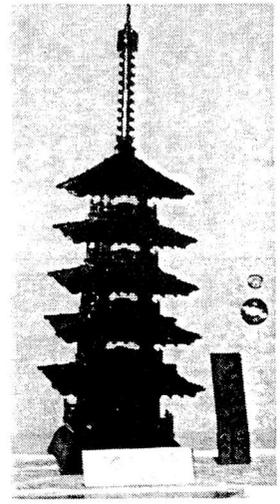
奥板組合員が組合創立30周年記念を機会に手作りの銅板作品を奥板へ寄贈して5月26日の記念式典で感謝状が授与された。

作品は五重塔と吊り灯籠と銅板彫金額縁の三点で五重塔は岡崎支部の故加藤進二氏の作品。加藤氏は生前幾つかの作品を作っておられたが平成三年十一月八十才で他界され遺作の中から息子の哲夫氏から寄贈された。

吊り灯籠は西三支部の青年部が成人訓練で制作した作品。岡崎支部では2月26日に総会を開き阪神大震災の義援金にと青年部の作品が即売された。購入した内山英臣氏より寄贈された。

銅板彫金額縁は熱田南支部の清水正氏(82才)の作品で漢文額で松無古今色竹有上下節梅花和雪香と銅板に打ち出した作品を寄贈された。

三氏には記念式典で理事長から感謝状が贈られた。作品は奥板事務所に展示保管される。



▼中部板金工業組合協議会

第十七回通常総代会

中部板金工業組合協議会（中板協・鈴木辰次郎会長）は「第十七回通常総代会」を五月十一日名古屋駅前、キャッスルプラザにて、臼井全板連理事長を来賓に招き、常任理事・理事代議員五十六名の出席を得て開催した。中部七県で構成される中板協の総代会は各県持ち回り、毎年その所在地で開かれており、今回は愛知県の担当により設定され、午前十一時より理事会、午後一時三十分より通常総代会を行った。



総代会は定刻、静岡県板事務局長の司会で始まり、開会のことば、会長挨拶、議長選出、議案審議と通例にしたがい進められ、提案された平成六年度事業報告決算に関する件、平成七年度事業計画、収

支予算案審議の件は共に賛成多数で承認された。続いて第五号議案役員改選に移り、役員人選の提案説明があり別記のように承認決定した。次期会長については、人望、経験、年齢から愛知県板・平野理事長の会長就任が有力視されていたが、同氏の将来的な展望に立って、業界の若返りと活性化増大を進めるのが最善の策とのご意見から、平野氏は副会長として会長の補佐役



◆記念品贈呈◆

を務める事となった。宇野新会長の新任挨拶に続き、全板連報告がされ、全板連七委員会に出席している各委員の代表から委員会の活動状況が報告された。また来賓として挨拶に立った臼井全板連理事長から、全板連事業の総体的、基本的な目的と進展状況が述べられ、そして全板連役員改選に向け次期会長再選に熱意を見せられた。以上で式次第が終了。その後、高齢と健康を理由に今期を限り、長年務めた、すべての役職から退任される鈴木会長（静岡県板理事長）に記念品が贈呈された。記念品を受け

取った鈴木会長いわく「こんなに貰えるならこのまま続けても悪くないなアハハ」と得意のジョークに一同大喝采。あのガラガラ声に静岡なまりの次郎長節が聞かれなくなるのは残念であると共にまた一人人物男が去って行くのは寂しい限りである。総会終了後会場を他に移して和かに懇親会を開いた。(S)

5月各支部の動き

- 名古屋連合会 29日 総会 栄太郎 本店
- 瑞穂支部 1日 支部定例会
- 28・29日 青年部研修旅行 湯の山 温泉 三重カン トリー
- 中川港支部 1日 青年部支部会
- 25日 支部会合
- 昭和支部 8日 月例会
- 江南支部 15日 役員会
- 春日井支部 8日 定例会
- 1月〜4月 コーキング共同購入15事業所
- 西三板金連合会 25日 技能検定講習 説明会
- 岡崎支部 7日 役員会
- 豊田支部 12日 第一回班長会
- 西尾支部 13日 集団検診
- 安城支部 31日 役員会
- 東三支部 2日 定例会
- 25日 三役会
- 26日 東板会ゴルフコンペ
- 15日 青年部コーキング共同購入
- 27日 青年部ボーリング大会

▼中板協役員▲

- 会長 宇野万木男 (岐阜県板理事長)
- 副会長 平野 弘 (愛知県板理事長)
- 会計 清田 寿雄 (三重県板理事長)



編集後記

組合創立三十周年記念式典が五月二十六日に来賓・組合員・表彰者合わせて二百十名の出席を得て盛大に開かれた。県下の板金仲間多数が一堂に介する催しの会場では、久し振りの顔、懐かしい人、健勝を喜び会う賑やかな語り合いなど、組合と共に生きる人達で和やかな雰囲気包まれた。総代会・全板大会（秋田県）と続いた春先の行事も三十周年記念事業の開幕で一段落。六月に入ると、三十周年記念事業の「労働環境改善フイジビリティ調査事業」と年間事業計画にもとづいた各委員会担当による組合事業が本格的に動き出す。総代会での役員改選で五期目の舵取りを任された平野理事長体制、仕上げの年度が始まるうとしている。四月五月は一年中で一番いい季節、今年には雨の日が多く仕事が捗らない。お天とう様の御機嫌よろしくと願いたい。

五月三十一日(水)晴
二九五号編集会議
委員 七名 出席
午後六時終了 (S)